

# 公共施設で修繕奉仕

## 昭和 住宅業者 活動スタート

経年劣化した門のレリーフを塗り直す  
組合員ら Ⅱ昭和町押越の町立図書館



た。敷地内の芝刈りや清掃も行った。飯室美恵子館長は「なかなか手が届かなかった所をきれいに直してもらいありがたい」と話す。

組合は2012年に設立し、現在は36社で構成。商工会が窓口となり、住宅に関する悩み相談や、住宅の新築やリフォーム、内装、水回り、外構、電気などの工事の依頼を受け、適切な業者を紹介している。地元業者でつくり、商工会が間に入っていることで安心感があると、利用件数は増えているという。

今後も年1回ほどのペースで公共施設の修繕活動に取り組む方針。PR動画の撮影も行い、技術力や活動の情報発信にも活用する。渡辺理事長は「日々のお世話になっている地域へ恩返しするとともに、活動を知ってもらう機会にもなればうれしい」と話している。

昭和町商工会の住宅関係業者でつくる「快適住居(スマイル)工房組合」(渡辺潮理理事長)が、地域貢献の一環で公共施設を修繕するボランティア活動を始めた。第1弾として町立図書館の門などを塗装した。

11月に組合員約20人が参加して実施。町立図書館の開館から30年以上がたち、塗装がはげるなど劣化していた正門のレリーフや、あずまやのテーブル、ベンチを塗り直したほか、外周フエンスの壊れた部分を修繕し